

審 判 研 修

審判心得

- *公平であること（私情を入れない）
春のうららかな、すがすがしい気持ち。雨上がりの月のように（持田先生）
- *審判規則を熟知する（正しく運用、誤りのない審判）
- *剣理（理合）道筋、無理、無駄、無法
- *試合者より一步先に行く。（実力）稽古をする
- *審判技術に熟知する（たくさん審判をする）
- *健康体で活動的に

基本姿勢

- *かかとを意識する（離れないように）
- *背中が丸まらないようにする
- *肘をしっかり伸ばす
- *公正な気持ちで審判を行う、その上での判定

見落としやすい有効打突

- *宣告直後の打突
- *終了同時の打突
- *場外に出ると同時の打突
- *一方が一瞬の差での打突
- *出端小手の直後の面（赤・白の選手が何を打ったかを確認する）
- *すり上げ、返し技等、理にかなった良い技
- *自分が普段使わない技、予想外の技

審判重点事項

- *有効打突を正しく見極める能力を養う
 - ①有効打突の要件 ②技の違い、速度による技の見極めを適切に判断
- *反則行為を厳正に判断（勇気ある決断）
 - ①原因と結果を見極める ②不当な行為（公明正大に試合を行っているかどうか）
- *両者同時の反則は極力避ける（あり得ることもある）
- *反則を見逃さない審判より、反則をさせない審判
- *試合の状況を把握しておく（特に副将・大将、自分は左右されない）
- *境界線近くの「止め」は、攻防が有るか無いかを見極める

- *試合者の「中止要請」があった場合は「理由」・「時機」をしっかり確認する
- *大幅に移動した場合、元の位置に戻ることを心掛ける
- *試合者の先を読んで位置取りをする
- *攻防の先を読む
- *審判の経験を積む
- *自己管理をしっかり行う
- *大きな声で宣告する（試合者、観客、時計係りに聞こえるように）